

2014 年度 京都府立医科大学 英語 過去問 解説

解答方式	時間	大問数	難易度
記述式	120 分	4 問	やや難

■設問別分析

大問	区分	内容	難易度
1	長文読解	和訳、語彙、整序	難
2	長文読解	英問英答	標準
3	長文読解	内容一致	やや難
4	英作文	自由英作	標準

■設問別解説

1

パラダイムシフトに関する英文。和訳問題も意味類推問題も難易度が高いものが多い。1500 語近い長さであるが、試験時間は 120 分であるので、40 分程度で終わらせたい。

問 2 Far from being independent and mutually exclusive, however, these categories must be seen as complementary and overlapping

be far from ~は「～ではない」。前半部は being が省略された分詞構文と判断し、these categories を主語とする。far from と however で not A but B のバリエーションとして訳す。

和訳：これらのカテゴリーは、独立し互いに排他的ではなく、補完的で重複すると判断しなくてはならない。

2

人間とトナカイの関係に関する英文。センターレベルで比較的読みやすい英文であるが、英問英答問題である。英語で答えなくてはならないことを除けば、問題の難易度は高くない。京都府立医科大学の問題にも読みやすいものが含まれるため、ここで稼いだ時間を難しいものを解く時間に当てる。

3

スタンディング・イン・ラブという考え方について書かれた英文。論旨が掴みづらい文章である。問題形式は全て内容一致であるが、本文に言及のないものには“N”と解答しなくてはならないことに注意したい。どの程度の言い換えが正解、もしくは不正解になるのか、過去問を解いて確認しておく。

4

150語程度の自由英作文。

今年度のテーマは、少子高齢化の対策として、退職年齢を上げるだけでなく、一人当たりの受け取り年金をかなり減らさなくてはならない。これに対してどう考えるか、というものであった。